

令和2年度 第35回富竹祭 アンケート集計用紙

1 文化部門について

(1) 学年発表の評価 (1 悪い ~ 良い4) 1年平均…4 2年平均…4 3年平均…4 全体…4

1年…学年発表をよくするために全力を出し、みんなと協力してひとつの物をつくりあげることができた。
詩の朗読。何より感情をこめて、尚且つ音量を大きくしなければならなかったので、とても大変だった。
横断幕をつくること。みんなが見るものだし、発表の最後に出すものだったのできれいに作った。

2年…ダンス、合唱、合奏では大きな声を出したり、道具や背景画も一生懸命作った。精一杯全力で頑張れた。
三味線を間違えないように毎日の練習を欠かさず行い、みんなで1つになれるよう努力した。
練習してきた成果を本番で出し切れたこと。

3年…2年生の時から練習してきた「言葉にすれば」の合唱を完成させたこと。
それぞれの活動で自分のすべきことを一生懸命できたこと。
制限がある中で合唱や劇を一生懸命つくりあげたこと

(2) 自分の学年(部門)以外の発表で一番印象に残っている発表

印象に残った発表

3年発表…3年生の劇には心から感動した。3年生みたいになりたい。
たくさんの方が劇に携われるように章ごとに人を変えて工夫しているところが新鮮だった。
3年生の演技力と、その劇の内容で深く考えさせられた。

2年発表…色々な楽器があり、三味線とドラムの音がぴったり合っていて完成度が高かった。
短期間の中で三味線などの演奏や、ダンスが仕上がっていてよかった。
最初の面白い部分と、合奏・合唱のかっこよさのギャップがとてもよかった。

1年発表…とても一生懸命さが伝わってきて、1年生の頃の自分たちを思い出した。
太鼓の合奏がよかった。1つ1つの音に気合いがこもっていた。

吹部発表…とても上手な演奏だった。「すえみょん」と「ちのえもん」が印象的だった。
1つ1つの音がきれいで、司会の盛り上げ方も最後に相応しく感動的だった。

2 部門別の取り組みについて

(1) 部門別の仕事の評価平均 1年平均…4 2年平均…4 3年平均…4 全体…4

- みんなに見てもらえるものなので心を込めてきれいにつくった。
- みんなが作ってくれたものがよく見ってもらえるように工夫して展示した。
- 自分の部門の仕事に責任をもって取り組むことができた。
- 使用する用具を出したり、本番の動きを覚えること、最後の片付けなどすべて頑張った。
- 本番を成功させるために助け合いながら活動や練習することを怠らなかった。
- 最高学年として後輩に指導したり、引き継ぎをすることができた。
- お点前をみんなにしっかりと発表することができた。

③ 体育部門について

(1) 自分の体育部門の評価平均 1年平均…4 2年平均…4 3年平均…4 全体…4

1年…リレーや長縄をクラスのために全力で頑張ったり、ブロックの先輩を全力で応援することができた。
長縄で自分のチームが初の70回を跳べて泣きそうになった。みんなで協力した証だと思う。
2年…長縄で新記録を出したり、リレーで1つのバトンをみんなでつなぐことができた。
みんなで作戦を立てたり、苦しい練習もあきらめずにできた。
3年…クラス全員でやってきた長縄を本番でも一致団結してすべてを出し切り競技に臨むことができた。
ブロックの後輩たちへの応援や、仲間や後輩のサポートができた。

④ 文化・展示・体育部門や部門の準備活動など、富竹祭全体を通して、よかったと思うもの

1年…コロナの中でも、これだけの内容ができてとてもよかった。
すべての部門が素晴らしく、富竹中が1つになっていた。
全校生徒の心が1つになり、このコロナの状況でも富竹祭を成功させられてよかった。
初めての富竹祭で、楽しさ、緊張、不安があったが、精一杯できた。
2年…みんなで協力して劇や競技に全力で取り組むことができた。
コロナ禍の中でもルールを守りながらできてよかった。
3年生が競技を終えた後に勝ち負け関係なく他クラス・他ブロックと喜び合っていることがよかった。
文化部門、体育部門ともに生徒会本部や先生方の準備があり、スムーズに進んだ。
3年…それぞれの活動の中で「もっとこうの方がいい」など、アドバイスし合いながら進められた
学年に関係なく、改善点やアドバイスを交わし合い、ブロックを超えた縦のつながりをつくれた。
コロナのこともあり、色々と考えなければならなかったが、去年と同じくらい楽しかった。
みんなで同じ方向を向き、協力して取り組むことでさらに絆が深まった。

⑤ テーマ『挑戦 ～チャンスは自らの手で～』の達成評価

1年平均…3.9 2年平均…3.5 3年平均…4 全体…3.8

評価の理由

1年…様々な場面で挑戦し、クラスが1つになってチャレンジできたから。
体育部門の練習では負けていたが、諦めなければ最後にチャンスがあるということが実感できたから。
初めての富竹祭だったからこそ色々なことに挑戦し、チャンスをつかめたから。
勝利を手にするのも大切だけど「協力」「友情」を手に入れたほうがよいと感じることができたから。
2年…コロナウイルスというピンチをチャンスに変え、楽しむことができたから。
最後まで諦めずに挑戦したら体育部門で勝って、本当にこのテーマ通りだと実感したから。
間違いや後悔もあったが、すべてにおいて達成感や満足感を得られ、最高の富竹祭になったから。
この状況だからこそ、準備や練習を重ね、よい思い出ができたり、3年を支えて1年を引っ張れたから。
3年…例年と違い、経験したことがないやり方だったが、努力と工夫を重ね、成功させることができたから。
コロナ禍の厳しい状況の中だからこそ、例年以上に協力し合うことができ、その結果、素晴らしい富竹祭をつくりあげることができたことはすごいと思うから。
コロナの中でも富竹祭に挑戦し、今までとは違った新しい文化祭の発表や競技をやったりしながらも、今まで受け継いできた富竹中の伝統も残せた富竹祭になったと思ったから。

